

## — フローリングの適切な手入れ —

花王生活科学研 ○杉田満 柴田久美子 中川雄之介

花王家庭品研 横須賀道夫

目的 一般家庭において総床面積に占める木質系床材の比率が増加する傾向にある。現在用いられる主要な木質系床材であるフローリングは、合板を基板として表面化粧板を貼り塗装を施した構造を有しているため、様々な環境要因に対する耐久性等が旧来のムク材よりも木質系床材と異なると考えられる。また、床材だけでなく住宅構造及び住宅内外の環境変化により、生じる汚れの質も変化してきていると考えられる。そこで材質や汚れの双方の変化に対応すべく、床の最適な手入れ方法についての検討を行った。

方法 1) フローリング所有者を対象に、気になる汚れについて意識調査を行った。  
2) 汚れの除去方法の検討；家庭内で生じる頻度の高い各種の汚れに対し、から拭き、水拭き、掃除機掛け等の除去効果について検討を行った。  
3) フローリングの劣化試験；日光、磨耗、水の各劣化要因に対する表面の変化について検討した。劣化の測定は、表面形状の変化を表面粗さの測定により、損傷度合いを画像解析による面積比の測定により行った。

結果 1) フローリングの気になる汚れとして、綿ボコリ、髪の毛、食べこぼし、ペットの毛などが挙げられた。2) から拭き、掃除機掛け等の乾式掃除でもホコリ等の軽い汚れに対しては効果があり、日常的には十分であると考えられた。しかし、汚れの種類によっては湿式掃除でないと除去不可能であった。3) 日光・摩擦だけでなく水拭きでもフローリング表面の劣化が促進されることが判明した。また、このような要因からの劣化防止にワックスなどの保護剤の定期的な処理が有効であることも判明した。